

# 即時OA義務化と機関リポジトリの意義

～「義務だから」なんてもったいない？ オープンアクセスで世界を幸せにしよう～

京都大学附属図書館 研究支援課長  
野中雄司

40 Slides

JPCOAR地域ワークショップ@沖縄  
令和7年12月19日（金）  
@琉球大学

北海道大学  
附属図書館  
13年  
係員10年  
係長3年

室蘭工業大学  
附属図書館  
3年  
係長3年

東京大学  
附属図書館  
4年  
係長4年

富山大学  
附属図書館  
3年  
課長3年

京都大学  
附属図書館  
2年目  
課長2年



# 自己紹介 (機関リポジトリとの関わりと本企画担当部会主査として)



係員時代に  
リポジトリ担当3年

北海道大学  
附属図書館  
13年  
係員10年  
係長3年

室蘭工業大学  
附属図書館  
3年  
係長3年

東京大学  
附属図書館  
4年  
係長4年

富山大学  
附属図書館  
3年  
課長3年

JPCOAR  
イベント運営作業部会  
主査2年目

京都大学  
附属図書館  
2年目  
課長2年

現在  
リポジトリ担当課長  
として2年目



HUSCAP~KURENAI までブランク? 約13年...  
この間はサービス部門担当が多く、いわゆる一般的? な図書館職員です

# このコマの内容

現在の日本における機関リポジトリ状況の概観のために、リポジトリへの影響が大きい国のOA基本方針※（特に即時OA義務化）についておさらいしつつ、改めて機関リポジトリの意義を考えてみます。

また、本日のプログラムについての概観も行います。

## シナリオ

1

「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」とは何か

2

それで、私たちは何をすればよいの？

3

JPCOARコミュニティの紹介

4

機関リポジトリの意義と大学図書館の役割

1

「**学術論文等の即時オープンアクセスの実現  
に向けた基本方針**」とは何か

# ゆっくり「国のOA基本方針」のおさらい（原文も見ながら）

## 意義からゆっくりおさらいしてみます （原文も一緒にみながら）

研究DX 内閣府



[内閣府「研究DX（デジタル・トランスフォーメーション）－オープンサイエンス：学術論文等のオープンアクセス化の推進、公的資金による研究データの管理・利活用など－」](#)（最低限見るとよいものを時系列順にした。今日は下記オレンジ色の2つの本文PDFも見ながら）

- 公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方（令和5年10月 総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員）  
今日は「基本的な考え方」と呼びます
- ↓

• 学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針（令和6年2月 統合イノベーション戦略推進会議決定）  
今日は「国のOA基本方針」と呼びます
- ↓

• 学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針の実施にあたっての具体的方策（令和6年10月 改正 関係府省申合せ）  
今日は「具体的方策」と呼びます

# ゆっくり「国のOA基本方針」のおさらい（原文も見ながら）

## 冒頭 1 : オープンアクセスの意義

**科学技術は**、社会課題を成長のエンジンへと転換し、持続的な経済成長を実現する原動力であり、同時に、感染症や自然災害等の脅威について国民の安全・安心を確保するものであり、**国家の生命線**となっている。

学術論文の発表等を通じた**オープンアクセスの推進により**、研究の進展や社会実装につながり、**科学技術の研究成果は国民に広く還元**されている。



# ゆっくり「国のOA基本方針」のおさらい（原文も見ながら）

## 冒頭 2：策定経緯

科学技術・イノベーションに関する成果の流通の重要性に鑑み（中略）  
**総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員等において検討**

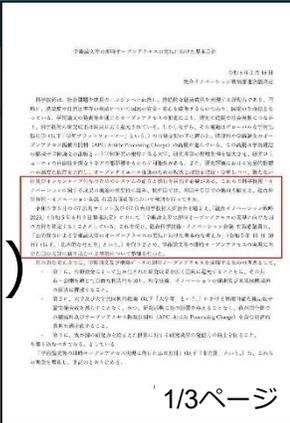
G7広島サミット及びG7仙台科学技術大臣会合（R5.5）



「**統合イノベーション戦略2023**」において「**学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた国の方針を策定する**」が明記



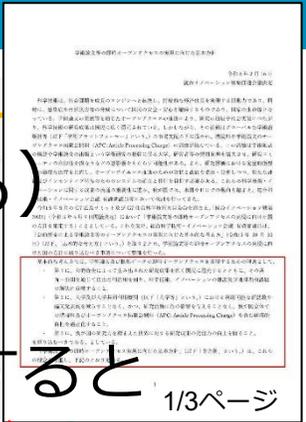
「**公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方**」（R5.10.30 **総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員**）



# ゆっくり「国のOA基本方針」のおさらい（原文も見ながら）

## 理念（「基本的な考え方」（後述）の理念から引用されている）

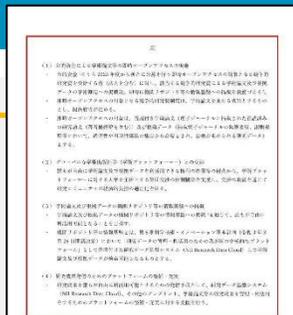
- 第1に、公的資金によって生み出された**研究成果を広く国民に還元**するとともに、その共有・公開を通じて自由な利活用を図り、**科学技術、イノベーションの創出及び地球規模課題の解決に貢献**すること。
- 第2に、大学等における利用可能な雑誌数や論文発表数を減らすことなく、かつ、研究活動に負の影響を与えず、我が国全体での購読料及びAPCを含む経済的負担を適正化すること。
- 第3に、我が国の研究力を踏まえた**世界に対する研究成果の発信力の向上**を図ること。



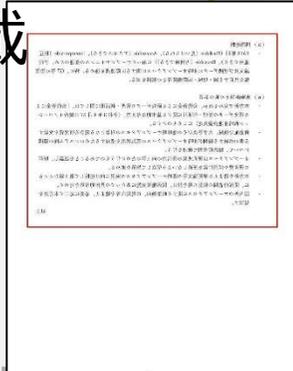
# ゆっくり「国のOA基本方針」のおさらい（原文も見ながら）

## 方針の本体

- (1) 公的資金による学術論文等の即時オープンアクセスの実施
- (2) グローバルな学術出版社等（学術プラットフォーム）との交渉
- (3) 学術論文及び根拠データの機関リポジトリ等の情報基盤への掲載
- (4) 研究成果発信のためのプラットフォームの整備・充実
- (5) 国際連携
- (6) 実施体制その他の事項



2/3ページ



3/3ページ

「国のOA基本方針」は様々な対象に向けてに書かれている。（国、資金配分機関(JSPS等)、研究DXプラットフォーム整備・運営主体(NII, JST等)、大学等その他機関など）  
大学（特に図書館）に関係するところはどこなの？  
 遡って「基本的な考え方」を見るともう少しわかりやすい

# ゆっくり「国のOA基本方針」のおさらい（原文も見ながら）

「公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方」（「**基本的な考え方**」）

項番3. 即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針

- 国及び**関係機関**（資金配分機関（FA）、研究DXプラットフォーム4整備・運営主体、**大学等その他機関**）は互いに連携し、オープンアクセスの推進に向けた施策を着実に行う。

大学は「関係機関」の一部として表現されている

# ゆっくり「国のOA基本方針」のおさらい（原文も見ながら）

## 「基本的な考え方」

### 項番3. 即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針

（「関係機関」の部分は4点　うちリポジトリ関連は2点）

- 国及び**関係機関**は、**大学等における機関リポジトリの価値向上、成果発信力の強化**を行う。
- 国及び**関係機関**は、**論文及び根拠データの機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を通じて、誰もが自由に利活用可能となることを目指す。**
- 国及び**関係機関**は、**学術論文の定量的な評価のみによらない新たな評価体制の確立を目指す。**  
↳ 主に大学全体で取り組むこと
- 国及び**関係機関**は、**オープンアクセスは研究成果の発信力の向上等のために行うものであることを認識し、既存の研究費や採択件数を圧迫しないように努める。**

↳ 主に大学全体で取り組むこと

# ゆっくり「国のOA基本方針」のおさらい（原文も見ながら）

## 「国のOA基本方針」に戻って 本体

- (1) 公的資金による学術論文等の即時オープンアクセスの実施
- (2) グローバルな学術出版社等（学術プラットフォーム）との交渉
- (3) 学術論文及び根拠データの機関リポジトリ等の情報基盤への掲載
- (4) 研究成果発信のためのプラットフォームの整備・充実
- (5) 国際連携
- (6) 実施体制その他の事項

- 大学（特に図書館やリポジトリ運営者）が為すべきことは主に（3）
- ただし、（1）は、競争的研究費を受給する者（≒研究者）への義務であるが、（3）の前提となるため理解しておく

# ゆっくり「国のOA基本方針」のおさらい（原文も見ながら）

## （1） 公的資金による学術論文等の即時オープンアクセスの実施

- 公的資金のうち2025年度から新たに公募を行う即時オープンアクセスの  
対象となる競争的研究費を受給する者に対し、該当する競争的研究費によ  
る学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ  
等の情報基盤への掲載を義務づける。
- 即時オープンアクセスの対象は、査読付き学術論文（電子ジャーナルに掲  
載された査読済みの研究論文）及び根拠データとする。

# 「（１） 公的資金による学術論文等の即時オープンアクセスの実施」

誰が？

科研費等を受給する研究者は

何を？

その研究成果である  
学術論文と根拠データを

どうする？

所属機関のリポジトリで公開する

# 「（１）公的資金による学術論文等の即時オープンアクセスの実施」

誰が？

科研費等を受給する研究者は

日本学術振興会（JSPS）
科学研究費助成事業
科学技術振興機構（JST）
戦略的創造研究推進事業 ※一部除く 創発的研究支援事業
日本医療研究開発機構（AMED）
戦略的創造研究推進事業 （革新的先端研究開発支援事業）

【おまけ】

自大学の研究者はどれくらい対象？  
（例えば以下のサイトから件数などがわかる）

科研費データ

[https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27\\_kdata/index.html](https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html)

研究者が所属する研究機関別 採択件数・配分一覧（令和7年度）

[https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken\\_27\\_kdata\\_g\\_3438/3-4-1\\_r7\\_0516.pdf](https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken_27_kdata_g_3438/3-4-1_r7_0516.pdf)

「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針の実施にあたっての具体的方策（令和6年10月 改正 関係府省申合せ）」より

# 「（１） 公的資金による学術論文等の即時オープンアクセスの実施」

何を？

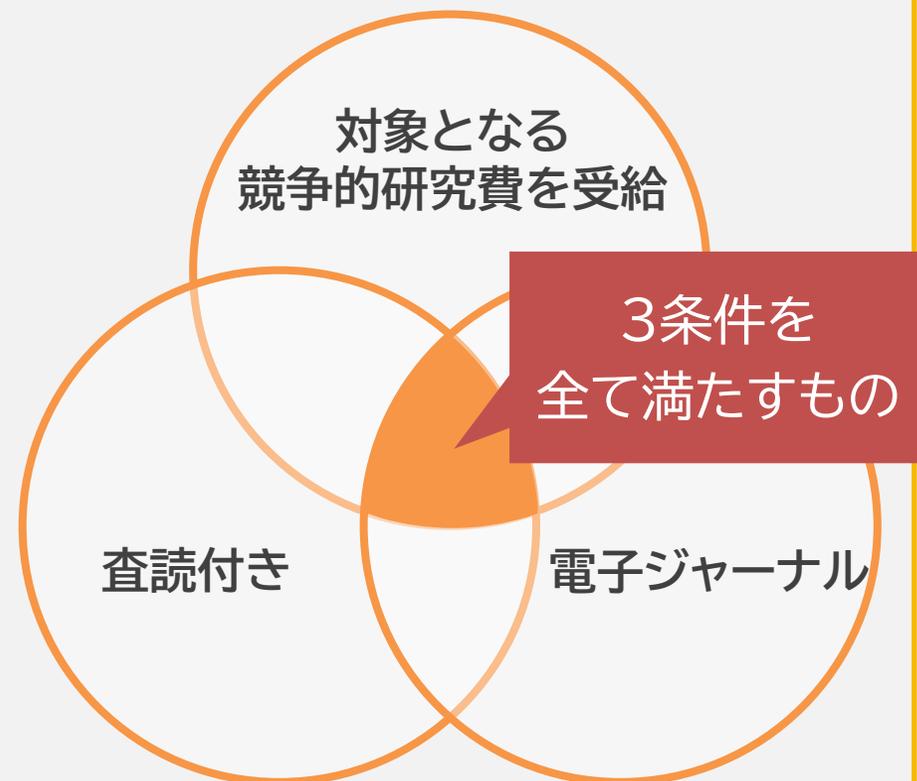
その研究成果である  
学術論文と根拠データを

## 【対象となる論文と根拠データ】

電子ジャーナルに掲載された査読済みの研究論文  
およびその根拠データ



- ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、公表が求められる根拠データ
- 公表を前提としていないデータは含まない



# 「（１） 公的資金による学術論文等の即時オープンアクセスの実施」

どうする？

所属機関のリポジトリで公開する

- 私たちが貢献できるところ。
- 本日はこの部分のお話しです。  
（３）の部分です

# ゆっくり「国のOA基本方針」のおさらい（原文も見ながら）

## （3） 学術論文及び根拠データの機関リポジトリ等の情報基盤への掲載

学術論文及び根拠データの  
機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を通じて、  
誰もが自由に利活用可能となることを目指す。

# 「国のOA基本方針」には大学図書館向けには何が書いてあるのか？

## 研究者に求められていることは、

- 研究成果である学術論文と根拠データを所属機関のリポジトリで公開し、誰もが自由に利活用可能となるように

## 大学図書館に求められていることは、

- 機関リポジトリの価値向上、成果発信力の強化
- 研究者の研究成果公開・発信のサポートを機関リポジトリを通じて行う

2

それで、私たちは何をすればよいの？

# 私たちが為すべきこと（まずは）

- 機関リポジトリの価値向上、成果発信力の強化
  - 研究者の研究成果公開・発信のサポートを機関リポジトリを通じて行う
- を実現するための研究者支援への最初のステップ（最低限の準備）は主に以下4点

① 「国のOA基本方針」の理解

② 機関リポジトリの構築

③ リポジトリの運用指針作成などの運用整備

④ 雑誌発表論文の登録に関する知識

• 特に雑誌発表論文における著作権ポリシーの理解

⑤ メタデータ流通の知識

リポジトリ運用準備



実務者の知識準備

本日は主にこの③と④について説明します。

（話者によるまとめ）

③と④について、本日は

- **10:40～12:00 即時OA義務化におけるリポジトリ  
査読済み学術論文のリポジトリへの登録と流通（説明+デモ）**
- **13:15～14:30 雑誌発表論文ポリシー確認の仕方**

コマで説明します。

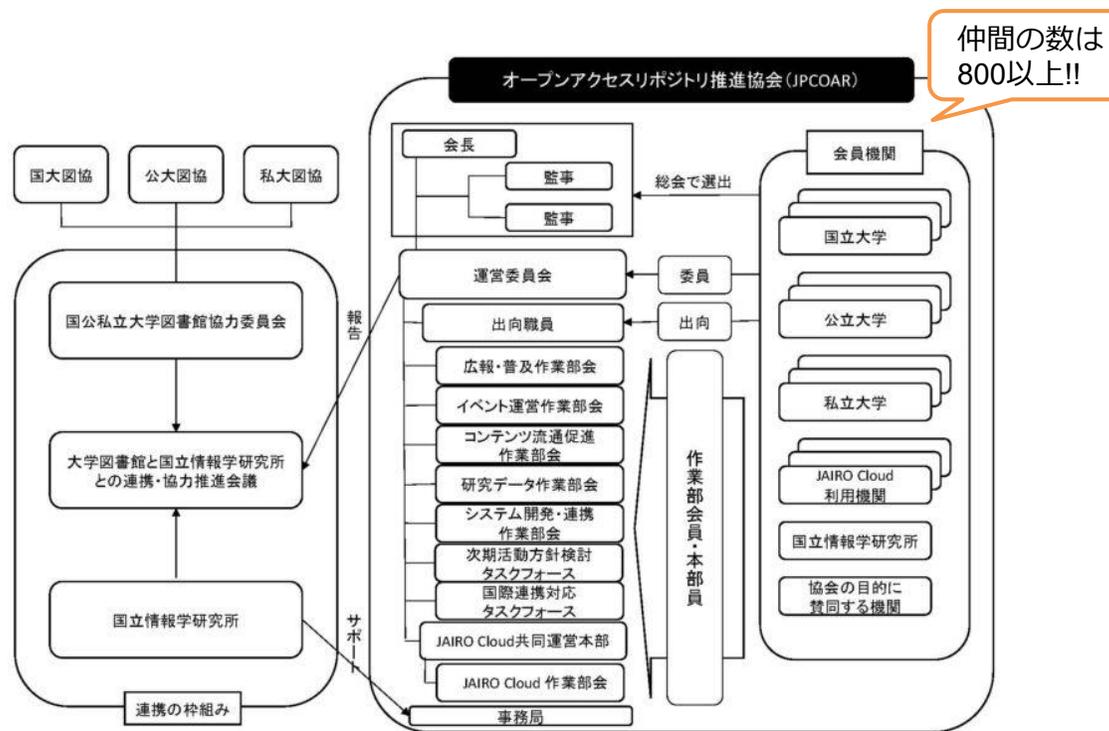
3

## JPCOARコミュニティの紹介

困ったときに役立ててほしいコミュニティの紹介：JAIRO Cloudを中心に

# JPCOARは会員機関同士が助け合えるコミュニティ

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）は、機関リポジトリを運営する会員機関が相互に情報とノウハウを共有するためのコミュニティ



JPCOAR組織図 <https://jpcoar.org/aboutjpcoar/organization/>



会員機関は、教材や説明会を自機関のリポジトリの運営に役立てると同時に、他の機関へのアドバイスや事例の共有を通して、当事者としてコミュニティの運営に携わっています

ここから先は午後のコマの

- **14:45～15:15 JAIRO Cloud 困ったときの対応について**  
で紹介します！

また

- **15:30～16:30 グループワークシヨップ**  
で一緒に悩みを共有、力をあわせて悩みを解消しましょう！

4

## 機関リポジトリの意義と大学図書館の役割

ここから  
特に話者私見です

# 改めてオープンアクセスの意義とは？

義務化はされたけど、国のOA基本方針の目的も

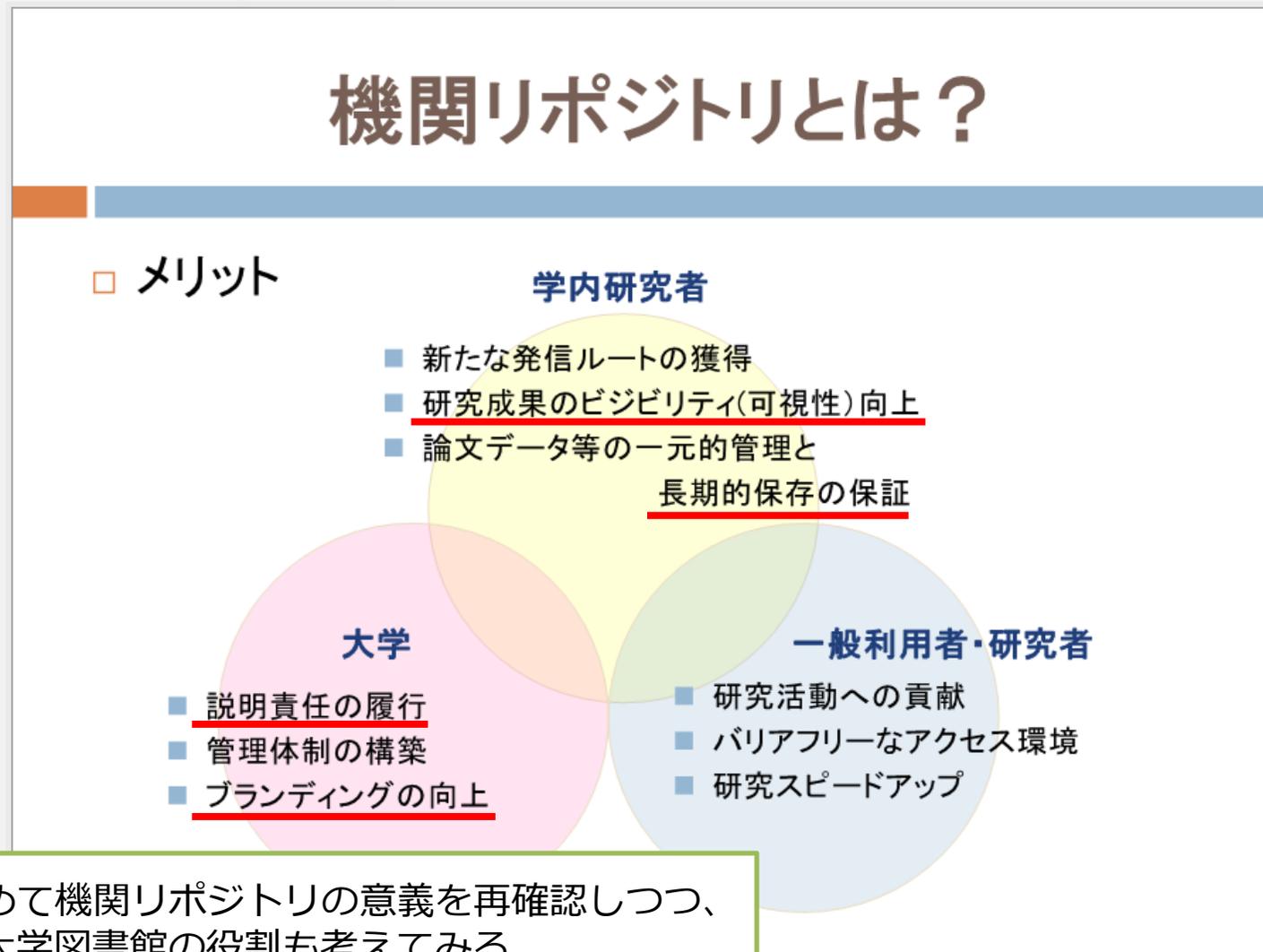
「公的資金によって生み出された研究成果を広く国民に還元するとともに、その共有・公開を通じて自由な利活用を図り、科学技術、イノベーションの創出及び地球規模課題の解決に貢献すること。」

誰もが反対のしようがない理念、目的であり「義務だから」ではもったいない！

大学図書館にとっても貢献度を高められるチャンス！

# 改めて機関リポジトリの意義とは？

## 機関リポジトリの意義（基本）



「義務化」にあたり、改めて機関リポジトリの意義を再確認しつつ、機関リポジトリにおける大学図書館の役割も考えてみる

赤線（話者追加）

# 大学図書館関係の最新政策文書では

## オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について (審議のまとめ)

(文部科学省科学技術・学術審議会情報委員会オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会(令和5年1月25日))

1丁目1番地に以下の記述

(1) **今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービス**について

【ポイント】

大学図書館は、今後の教育・研究における利用に適した形式で既存のコンテンツのデジタル化と、**学術研究等の成果として今後産み出されるコンテンツのオープン化**を進める。(以下略)

# 大学図書館関係の最新政策文書でも

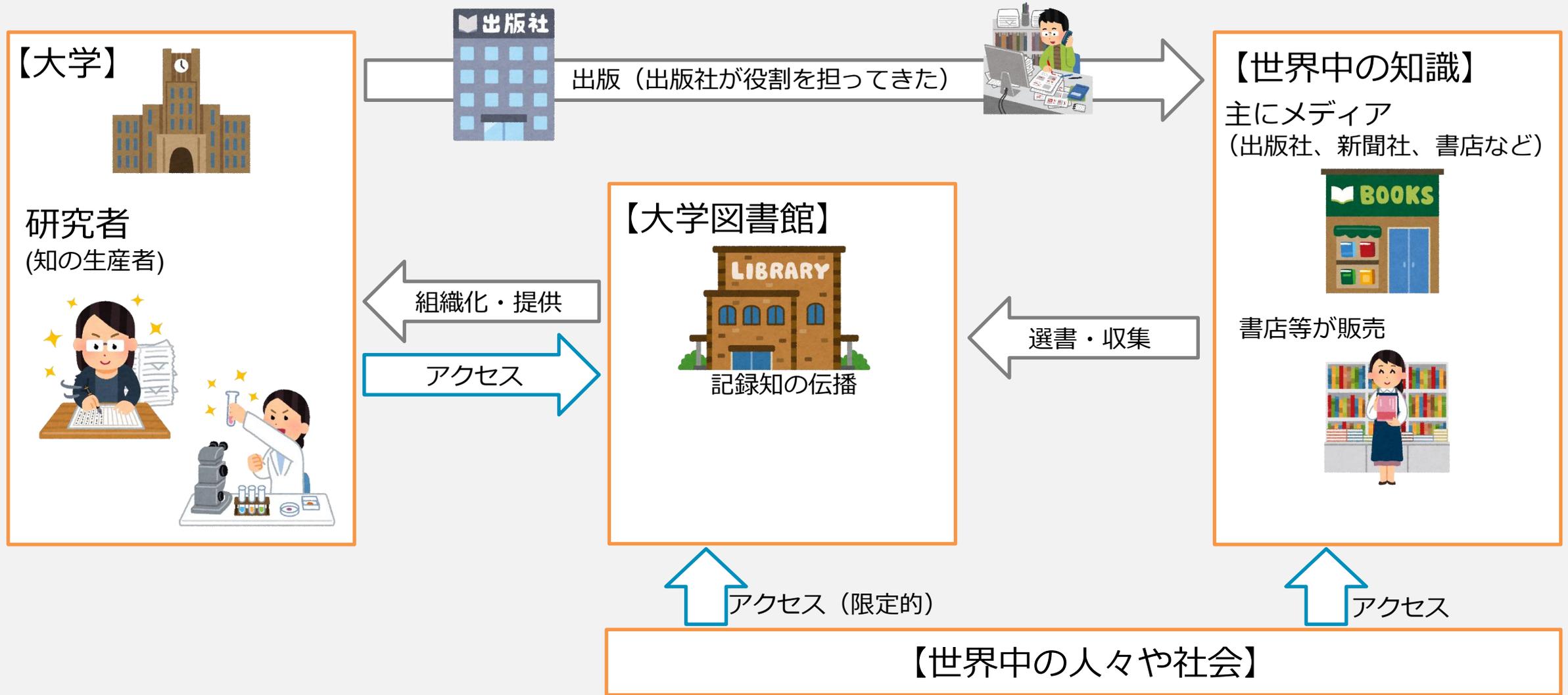
さらに「**大学図書館の本質的認識**」として

大学図書館は、情報やデータ、知識が記録されることを前提として、大学における教育・研究の文脈においてそれらの発見可能性を高め、アクセスを保証し、また利活用できるようにすることで  
**継続的に知が再生産されるようなシステム**を維持するために存在する  
との本質的認識に立っていた

と記載されている。

なぜ「コンテンツのオープン化」をすすめるのか、を考えるにあたって、  
改めて「知が再生産されるようなシステム」を振り返ってみる

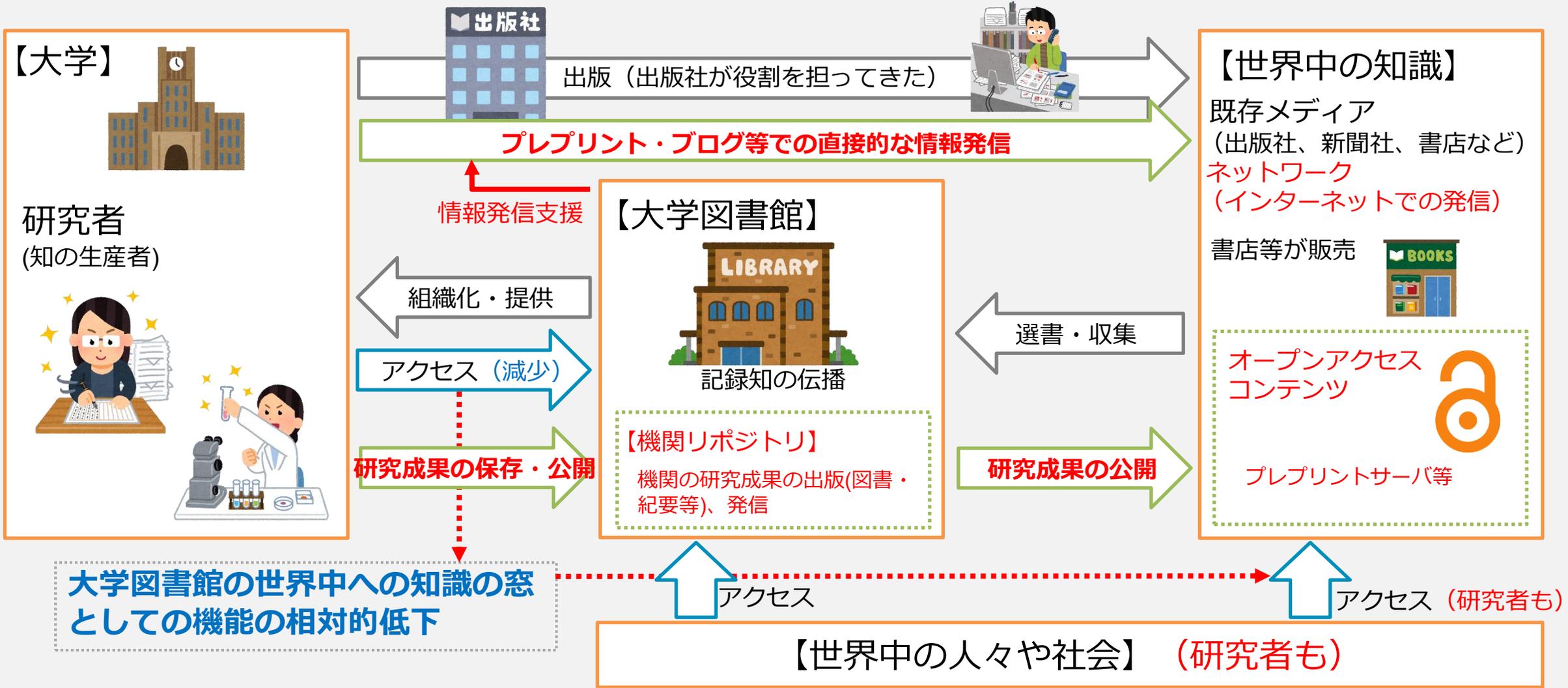
# 「知の再生産システム」の中での大学図書館（過去：デジタル革命前）<sup>33</sup>



大学図書館は、主に大学構成員への中へへの知識の窓として機能してきた



# 「知の再生産システム」の中での大学図書館（現在：デジタル革命後）



## 大学図書館は、世界中への知識発信の窓としても機能する

デジタル (ハイブリッド) ・ライブラリー    △電子と紙のハイブリッド    ○知識の伝播と発信のハイブリッド

# 「知の再生産システム」の中での大学図書館（現在：デジタル革命後）



大学図書館は、世界中への知識発信の窓としても機能する

デジタル (ハイブリッド) ・ライブラリー △電子と紙のハイブリッド ○知識の伝播と発信のハイブリッド

# 機関リポジトリの意義と可能性

大学図書館は

「知が再生産されるようなシステムを維持するために存在する」

△ **オープン化による図書館の中抜き（役割の相対的低下）**

○ **「世界中への知識発信の窓」として無限大な貢献可能性**

**昔も今も図書館は「知の再生産システム」において重要な役割  
（知りたい人に、知りたい知識を届ける。その役割はむしろ増大している）**

デジタル化とオープン化が加速度的にすすんでいる今、  
我々がさらに貢献する可能性が増大している。

**機関リポジトリは世界中への知識発信の窓として**

**「知の再生産システム」の重要な役割を担い、科学の発展に貢献**

# 図書館の「知の循環システム」への貢献

## （これまで（も）） 知識を伝播する役割

私たちは世界中で協力して、1件1件目録を作成し、さらに利用者が使いやすいように棚に並べて、知りたい人が知りたいことにアクセスできるような環境を構築する仕事をしてきた。

## （これから（も）） 知の循環全体を支援する役割

これからも同じで、オープンにしたい人がいたら、1件1件オープン化や研究成果発信の支援を行い、整理、流通させ、世界中の知りたい人が知りたいことにアクセスできるようにしていくことができる。これは**私たちの最も得意**とすることであり、かつ**私たちにしかできない**ことではないでしょうか。

# 私たち（図書館職員）ができること、役割

## ① 1件1件コツコツとオープンにする

私たちのできる範囲で、できる量をコツコツとオープンにしていくこと。

（特に世界中で私たちにしかオープンにできない、紀要や学位論文、そしていわゆるグリーンオープンアクセス学術雑誌論文）

## ② 流通にのせ世界中の人に届ける

加えて、オープンにした成果物を、きちんと世界中の人に届けるようにすること。

（メタデータ（書誌情報など）を整え、世界中の人がみつけやすいようにCiNiiで検索できるようにすることや、GoogleScholar等の交際的なデータベースで検索できるようにすること）

# 本日の目標

1. 「国のOA基本方針」に対応するため、また、機関リポジトリの本来の意義に対応できるような知識を吸収する。
2. 新しいサービスであり、コミュニティの相互扶助が重要です。JPCOARの相互扶助のメニューを把握していただけたら。
3. 本日参加したみなさんで悩みを共有したり、少しでも解決できることを目指す。
4. 今後のコミュニティでの相互扶助に繋がれば